

英国大醫ウィリアム・ウィリス氏頌徳記念碑，碑文

著者	元吉 秀三郎
雑誌名	鹿児島大学医学雑誌=Medical journal of Kagoshima University
巻	47
号	Suppl. 1
別言語のタイトル	Epitaph & Monument of a British Medical Doctor, William Willis
URL	http://hdl.handle.net/10232/18281



英国大醫ウイリアム・ウィリス氏頌徳紀念碑

泰西の学我国に入りしより百年一新旧物皆な革まる中に就て醫術の進歩最も著大なり英国大醫ウキリス氏の如き即ち此進歩に与て多くの功勞を貽せし之恩人なり抑も氏が我国に渡航するや恰かも戊辰の変亂に遭遇す当時我官軍に傭聘せられて櫛風沐雨の辛酸を嘗め創者を療し病者を醫し官軍の病營依て以て安し後役止み天下全く靜謐氏も亦其傭を解るるに当り我薩藩の有司更に氏を招聘し醫学校並に病院を設立して學生を養成し疾病者を救濟するの道を開けり蓋し本県に醫術の旺盛を來す之を其素因とす明治丁丑の亂起るに及び氏難を避けて本国に還る今や我県大醫輩出或は公仕して位勲而ながら顯赫或は自營して司令の重任を全うする者皆な氏が薰陶の鴻恩に因らざる無し顧みれば氏の如き音に維新の当時兵馬の間に弛驅せし之の勞を覺城後進子弟に恩師と仰望せらるるのみに非ず又是れ我国文明の恩人と云うも過賞に非ざる可し項者高弟等相謀りて其勲功を表彰し其芳名を不朽に伝えんと欲し鶴嶺山下公園の勝地を卜して頌徳の紀念碑を建設す惟うに将来勝景を茲に探る者皆な比碑石を瞻仰せば功德永く後世に存して滅せざる可し徳孤ならず必ず隣あり之氏比如き夫れ比人やそれ比人や

文 碑